第36回
日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会

会期：2020年9月21日(月)～22日(火)　会場：ホテルクラウンパレス浜松　会頭：白濱 茂穂 先生（聖隷三方原病院 皮膚科）

本セミナーは、現地開催及びLive配信を複合したハイブリッド開催となります。

Live配信での聴講方法
大会ホームページから事前参加登録の上、「Live 配信」ページにアクセス後、参加証（ネームカード）に記載のID とパスワードにてご聴講いただけます。

大会ホームページ
https://jocd36.jp/

浜松城

学会1日目　イブニングセミナー6

爪白癬のガイドライン 改訂と実臨床

日時　2020年9月21日(月・祝)
16:40～17:40

会場　第9会場
ホテルクラウンパレス浜松 3F
【松（西・中）】
〒430-8511　静岡県浜松市中区板屋町110-17

講演 1

座長　静岡市立静岡病院 皮膚科　鈴木 陽子 先生

**『患者背景を考慮した
エフィナコナゾールによる治療継続と臨床効果』**

講師　藤田医科大学医学部皮膚科学講座　准教授　岩田 洋平 先生

講演 2

座長　堀口皮膚科クリニック　院長　堀口 大輔 先生

**『爪白癬の治療戦略
～爪白癬外用治療薬はいかに使いこなすべきか～』**

講師　楠原皮膚科医院　院長　楠原 正洋 先生

共催　第36回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会／科研製薬株式会社

講演 1

『患者背景を考慮した エフィナコナゾールによる治療継続と臨床効果』

藤田医科大学医学部皮膚科学講座　准教授　岩田 洋平先生

爪白癬は、治癒までに長期間を要するため、患者が通院・治療を継続することが重要であることは言うまでもない。そのため、治療開始する際には患者背景（年齢、合併症、常用内服薬、通院可能な頻度、治療意欲、など）を念頭に内服、外用治療のどちらが適するか決定することになる。日常診療では、肝機能障害や腎機能障害など合併症を有する高齢患者、多種の内服薬を常用中の患者、遠方で不定期な通院しかできずに定期的な採血が困難な患者など、抗真菌薬の内服治療を選択しづらい患者も経験する。従来は内服治療困難な患者では爪白癬の治癒が困難であったが、近年の新しい外用剤により安全に治癒を目指すことが可能となってきている。外用による治療効果を高めるためには、正確な診断と外用剤の特性を把握し、使用方法や患者選択を明らかにしていくことが皮膚科医には求められている。ごく最近に発表された臨床研究の結果を含めて概説する。

講演 2

『爪白癬の治療戦略 ～爪白癬外用治療薬はいかに使いこなすべきか～』

楠原皮膚科医院　院長　楠原 正洋先生

爪白癬は、足白癬に次いで日常診療の中で診ることの多い皮膚真菌症である。足白癬とは異なり、硬い爪甲内に侵入した皮膚糸状菌を駆逐するのは容易ではなく、爪白癬は現在なお治療が難しい疾患と言える。爪白癬治療の歴史は、古くはグリセオフルビン内服療法があったが、1990年代にテルビナフィン連続内服療法とイトラコナゾールパルス療法が相次いで開発され、当時爪白癬に有効な外用薬がなかったこともあり、爪白癬の保険適用のある治療法は内服療法のみという時代が長く続いた。2014年に本邦初となるエフィナコナゾールの爪白癬外用治療薬が上市されると、それまで治療できなかった患者も治癒に導くことができるようになり、爪白癬の外用療法という分野が確立された。その後、ルリコナゾールの外用薬、ホスラブコナゾールの内服薬と続いて上市され、現在では外用薬2種、内服薬3種から治療を選択することができる。2019年度日本皮膚科学会皮膚真菌症診療ガイドラインでは、これらの薬剤の有効性を認め爪白癬治療薬として推奨しているが、どの治療法を選択するかは、それぞれの治療法の特性を理解し、さらに個々の患者の病型や基礎疾患の有無、社会的、経済的環境などと照らし合わせて選択する必要がある。診療所等では、導入しやすい外用療法が現在もなお多く選択される傾向にあるが、いかに治療を継続させるか、長期的にいつまで継続するか、効果の判定はいつすべきか、効果がないと判断された場合の対応はどうするかなど、治療開始してからも疑問はつきることがない。本講演では自験例の経験をもとに、爪白癬の外用療法の実践的な運用について提言したい。